


海の環境教育研究発表会

海に学ぶいのちのお話



兵庫県立大学 環境人間学部
岡田 真美子

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 1

わたくしはー

京都に生まれる
東京で学生結婚24歳
岡山のお寺に嫁ぐ
ドイツへ
帰国後 長男誕生 34歳
神女大→震災→姫路へ 44歳



2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 2



兵庫県立大学
UNIVERSITY OF HYOGO

環境人間学部

◆平成16年度

県立3大学統合
旧 姫路工業大学
工学部 理学部
旧 神戸商科大学
旧 県立看護大学



2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 3


研究発表を拝見して

成果 いい年間計画ができた
地域環境への関心が高まった

楽しみ 知の交流の場を設けてゆこう
ライフスタイルが変わるように

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 4

工夫が楽しかった授業




2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 5

福井哲也先生

◆学校、保護者、地域全体の参画と協働が
目指され達成されたことがよくわかりました

- 区長さん; 海岸の今昔
- 子どもたち
- 先生たち

みなが学んだ



2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 6

1999年 中央環境審議会

「これからの環境教育・環境学習—
持続可能な社会をめざして—」

- ◆ 総合性
- ◆ 目的の明確化
- ◆ 体験重視
- ◆ 地域重視

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

7

兵庫県の環境教育・学習

推進に当たっての基本的な考え方

- ◆ ところをはぐみ「自然」「暮らし」「社会」を総合的に学ぶ環境学習
- ◆ 自ら「体験」「発見」し、自ら「学ぶ」環境教育・学習プロセスの推進
- ◆ 兵庫県の特性を踏まえた環境学習の推進
国際的な環境学習を参考にする

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

8

本日の内容

- ◆ 海之力 ～津波～
 - 生死を分けた知恵
- ◆ 海に始まる交流
 - ～いのちの国際交流史
- ◆ これからの環境学習

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

9

日本海に津波はないのか？

- ◆ 日本海中部地震
1983年5月26日
秋田県能代市沖
マグニチュード7.7

島根など遠方の府県にも津波被害発生
死者104名中100人が津波による犠牲者
男鹿市の加茂青砂へ遠足の合川南小

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

10



2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

11

海のちから

～津波～

人々の生死を分けたのは？

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

12

インド洋津波

◆ 2004年12月26日

巨大なスマトラ沖地震発生
マグニチュード9.0

続いてインド洋津波

死者行方不明者29万4035人



(時事通信 2005.2.6推計)

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

13

「言い伝え」「教訓」によって救われる

◆ インドネシア・アチェ州シムル島

- 震源まで40kmの島

- 1907年津波被害

- 「強い地震が起きて海水が遠くに引けば、津波が来る」という言い伝えあり

- 7万人の島民のうち死者7名、行方不明1人

インドネシアレブリカ紙、ニューデリー、ロンドン、ジャカルタ共同通信、朝日

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

14

「言い伝え」「教訓」によって救われる

◆ インドネシア・アチェ州 ウェ島。

- 引き潮から2分で8mの津波

- 漁民の間に言い伝えあり：
「急に潮が引いたら丘に逃げなければいけない」

- 27,000人の島民のうち犠牲者は12人

「NHK7時のニュース」2005年1月22日

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

15

「言い伝え」「教訓」によって救われる

◆ タイ・スリン島

- パンガー県沖約60kmにある島

- 「モガン」と呼ばれる漁民たちに先祖からの言い伝えあり
「異常な引き潮を見たら、山へ逃げろ」

- 逃げ遅れて亡くなったのは185人中1人だけ

築島総「先祖の知恵 島人救う」『朝日新聞2005年1月12日社会面』

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

16

学校で習った

SEITEKERS
Girl saved tourists thanks to school lesson
January 3, 2005

◆ ティリー・スミス
(10)イギリス

◆ プーケット島
マイカオ・ビーチ

◆ 担任の先生
アンドリュー・キ
アニー



2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

17

国連防災世界会議

◆ 2005年1月12-22日、神戸

◆ 2005年1月22日、21世紀の防災指針

「兵庫行動枠組み」(Hyogo Framework of Action: 2005 - 2015)を採択

Stimulate the exchange, collation, analysis, summary and dissemination of good practices, lessons learned, available technologies and programmes, to support disaster risk reduction. Hyogo Framework of Action: 2005 - 2015 IV. E. f



2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

18

スリランカ津波被災




◆ **稲村の火** 浜口梧陵 (儀平衛)

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 19

スリランカの賠償放棄

1951年サンフランシスコ講和会議

セイロン(現スリランカ)蔵相
故ジャヤワルディネ(後に大統領)



ダンマパダ(漢訳法句經)から**二節**を引用
憎しみを持つことなく、日本に対する賠償
権を放棄することを表明。

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 20

法句經

◆「怨みに報いるに怨みをもってしたならばついに怨みのやむことがない。
怨みを捨ててこそ怨みはやむ」
(『ダンマパダ5』)

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 21

ジャヤワルディネの遺言

この大統領の遺言状：
「視力を失った日本人に、私の角膜を役立てるように」
死後実際に角膜のひとつは群馬県在住の日本女性に移植された。

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 22

ひかりの布施

スリランカは日本にこれまで2000以上の角膜を寄贈

シビ・ジャータカ(仏の前世物語)にならって眼施をする人が多い。

2002年10月には国交五十年を記念して新たに50の角膜を贈られた。

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 23

インド洋津波 スリランカ支援 めがねプロジェクト

2004年12月26日インド洋津波が襲ったスリランカの復興のために今わたしたちができること

◆ 奈良のスリランカ支援者と共に干支PJはめがねを集めます。チラシ(90円) 老眼鏡でも、近視でも、乱視でも、サングラスでも、レンズだけでもOK。おうちやお店にある不要な古くなっためがねをお寄せください。「めがね供養」をしてスリランカへ送り出します！

【収集期間 場所】
期間 2005年10月10日(月)曜の日～11月11日(金)
送り先 〒617-0062 姫路市新在家本町11-12
兵庫県立大学環境人間学部 岡田研究室 TEL 0792-92-9215
★お持込の方は「眼科検査済書」まで 平日10:00-14:00の間にお越しください

【めがねの贈呈先と届き方】
◆めがねは、Dharmasoka寺のDhammika師を通して国立コロナ中央病院や周辺地域の施設に届けられます。
◆病院では、眼科医が患者さんの視力検査をした後、レンズを無料でお返ししてまいります。
◆12月10日、お世話をさせていただきます。奈良のおちとちもめがねをもって、理事長岡田真美子さんがスリランカへ送ります。



2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 24

めがね募集ページ
特設非常勤活動法人
千姫プロジェクト
兵庫県立大学地域人文学部 社会科学研究科
特定非常勤活動法人 千姫プロジェクト事務局
〒650-0192 兵庫県神戸市東灘区西宮ふたば1-1-1

兵庫県全庁から3000余人
赤穂でも200人

インド洋渡航 スリランカ支援 めがねプロジェクト
速報
昨日まで2234のめがねレンズ

今日までに集っためがねの枚数 (おしほボランティア) 募集中

2005年11月10日 日本「10月21日から兵庫県庁内でも集めておりました。めがねについて、昨日締め切りましたところ、総集、レンズ合わせて3000余の提供がありました。地方機関を含む全庁から提供がなされ、改めて本プロジェクトへの職員の関心の高さに、私自身が改めて驚かされています。」県庁政務課の米田主幹からのお便りです！

11月9日 水 めがね供養祭のご案内ページを作りました。 [こちら](#)

11月8日 火 東灘区の方がめがねに種中見合いをつけて送ってくださいました。

11月7日 月 本日めがね+レンズが2000個を越えました！

11月05日 土 あこめがねプロジェクト第2弾は大盛況の裡に終了。今回も64名の方がご協力くださったのでさうです。用意されたバリエーションも好評です。

11月04日 金 めがねプロジェクトも余すところあと1週間となりました。めがねあすはまたあこめがねプロジェクト第2弾があるそうですよ〜♪

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 25

海に始まる交流

いのちの国際交流史

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 26

ここは串本 向かいは大島

- ◆ 大島の夜明け



- ◆ 今は「連絡船」はなく、「串本大橋」




2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 27

上空から見ると



- ◆ 泊まったホテル
- ◆ 紀勢本線 串本駅
- ◆ 串本大橋
- ◆ 苗我島
- ◆ 潮岬灯台

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 28

紀伊大島



2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 29

トルコ軍艦の来訪

- ◆ 木造フリゲート艦エルトゥールル号
- ◆ 1887年の日本の皇族小松宮夫妻のイスタンブル訪問に應える目的
- ◆ 1889年7月、イスタンブルを出港
- ◆ 翌1890年6月日本到着

2005/11/11 © 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko 30

エルトゥールル号沈没

- ◆ 1890年(明治23年)9月16日夜半、台風
- ◆ 和歌山県樫野崎灯台沖の岩礁 船甲羅に激突、座礁、爆発、沈没。
- ◆ 灯台下に流れ着いた生存者が数十メートルの断崖を這い登って灯台に事件を知らせる
- ◆ 大島村(当時)の村民が総出で救助と生存者の介抱に当たった

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

31 ▶

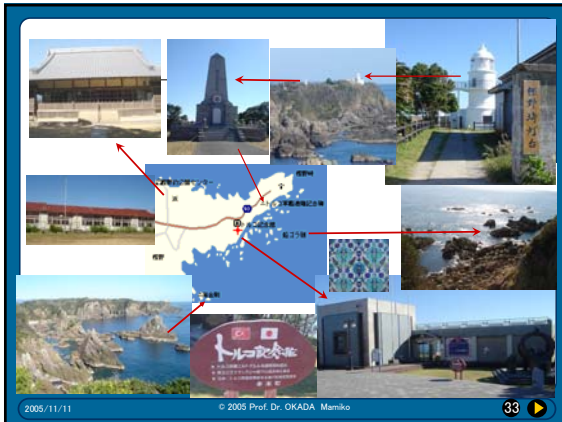
エルトゥールル号沈没

- ◆ 貴重な食料を供出し献身的に生存者たちを看護69名が救出され生還することができた。
- ◆ 生存者は日本海軍の「比叡」「金剛」2隻により無事トルコへと送り届けられた。

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

32 ▶



2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

33 ▶

トルコのご恩

- ◆ 1985年(昭和60年)。“イ・イ戦争”。イラクの大統領サダム・フセイン
- ◆ 「3月20日午後2時(日本時間)」タイムリミット テヘランに残された邦人215名
- ◆ テヘランの日本大使館の野村豊大使 トルコ大使館のビルレル大使に窮状を訴えた 2機のトルコ航空機が救う。

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

34 ▶

今後の環境学習

村瀬船長さん
「ベストティー
チャーです」
(中山校長先生)

- ◆ 地域の知恵の創造的継承
 - 地域の誇りを掘り起こす
 - よき伝統を継承し、
 - 新たなよさを加えて伝える
- ◆ よそ者にほめてもらうこと

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

35 ▶

ご清聴有難うございました



岡田真美子

<http://indranet.jp>

<http://1000.jp>

IT・パワポ担当
中尾先生

2005/11/11

© 2005 Prof. Dr. OKADA Mamiko

36 ▶